なぜ血液型ブームは繰り返されるか

0514135　芹澤綾香[1]　　指導教員　市原信

【目的】近年、再び「血液型ブーム」が加熱している。2008 年のオリコン本ランキングでは、「B 型自分の説明書」が 2 位にランクインしており、ブームの大きさを物語っている。血液型ブームは以前にも何度か起きており、2007 年には新しいタイプのブームが起こり、現在にいたっている。そこで本研究ではこのような現象はなぜ起きるのかを明らかにしたい。

【方法】血液型ブームの歴史、なぜわたしたちは血液型に惹かれるのかなどを文献やインターネットでの情報収集により調べた。

【結果及び考察】血液型ブームの血液型とは、「血液型性格判断」または「血液型性格学」と呼ばれるものである。血液型と人の性格との間に特定の関連性を見出し性格を分類するという考え方であり、ABO 式血液型を用いる。ABO 式血液型は 1901 年にオーストリアのラントスタイナーが発見した。その後、血液型と性格を結びつける研究を行なったのが、心理学者、古川竹二である。それが最も注目されたのは1930年代でこれが第一次血液型ブームと言われるものである。しかし、古川の学説は医学界などから激しい批判を受けしだいに忘れられていった。

だが、1970 年代にジャーナリストの能見正比古は、古川の学説を再発見し、独自の血液型性格判断体系を築き上げた。能見の著書はベストセラーになり、第二次血液型ブームが起こる。この時期には能見以外にも血液型性格判断を提唱する人が多く現れ、たくさんの関連書が出版された。その後も血液型性格判断は何年かの間隔を置いて小さなブームを繰り返し、「血液型と性格は関係がある」という考え方は日本人に広く定着した。

血液型ブームで記憶に新しいのは、2004 年のテレビでの取り上げ方である。木村(2006)によると 2004 年 4 月から 11 月までの間に「血液型と性格」関係の番組は、コーナーとして取り上げたのを含め、民放で 49 本あったという。しかし、このような番組はいじめを助長するなどの批判が多く寄せられたため、メディアで特集されることが少なくなり、ブームが沈静化した。

しかし、2007 年になり、「B 型自分の説明書」が出版され、再びブームが起こっている。この本は従来の血液型性格判断の著書とは異なっており、血液型を取扱説明書風に記述したもので、チェックリストやイラストを使って、分かりやすくユーモラスにまとめた娯楽本である。この本は自費出版で 1 軒の書店から火がつき、ブログのネタとなり、コミュニケーションツールとして口コミで徐々に広がった。その後、他の血液型の説明書も出版され、シリーズ合わせて 500 万部の大ベストセラーになった(2008)。図 1 は「自分の説明書」についてのブログへの書き込み数を時系列で示している。グラフに 3 つのピークがあるが、これはそれぞれの説明書の発売日にあたる。

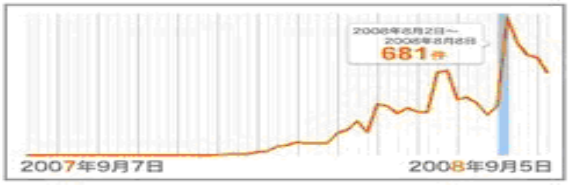

図 1　ブログへの書き込み数【自分の説明書】

このように、なぜ血液型ブームは繰り返されるのだろうか。石井(2008)は、ブームが何度も起きる原因を①「血は水よりも濃し」という血を重んじる考え方が根強い②ABO 式血液型は 4 タイプだから星占いなどよりも覚えやすい③出生時に調べて自分の血液型を知っている人が多い、の 3 点がベースになっているという。1930 年の第一次ブーム時は「世界恐慌」の時期であり、現在は「100 年に一度の経済危機」といわれる不安定な社会環境がある。このような社会的不安など、その時代背景がきっかけとなり、幾度となくブームが起きているのではないか。すでに私達にとって血液型性格判断は、身近なコミュニケーションツールだが、科学的根拠のない「取説ブーム」が一人歩きすることは危険も大きいと考える。

[1] Ayaka SERIZAWA